

令和元年度 第2回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時： 令和元年11月25日(月) 15時～16時30分

開催場所： 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者： 我孫子市教育委員会教育長 倉部 俊治

我孫子市教育委員会教育総務部長 丸 智彦

我孫子市小中一貫教育推進委員9名(1名欠席)

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局2名

傍聴人： 1名

1 委嘱式

第1号委員 川村学園女子大学教授 内海崎 貴子

第1号委員 我孫子東高等学校教諭 檜貝 ちはぎ

第2号委員 湖北保育園主任 深山 君江

第3号委員 湖北台中学校 PTA 会長 植田 晃

第3号委員 湖北台東小学校 PTA 会長 紺野 千春

第4号委員 布佐中学校長 小林 浩之

第4号委員 新木小学校長 横山 悦子

第5号委員 高野山小学校教頭 山本 良

第6号委員 湖北台西小学校教務主任 細田 雄樹

第7号委員 子ども支援課長 荒井 康哲

2 内海崎委員長 挨拶

今回の改訂で、「我孫子市小中一貫教育基本方針」が整理され、大分スリムになった。本日、ここにあがっているのは、「案」であるから、これをここにいらっしゃる皆さんで、よりよいものにしていきたい。忌憚のない意見をお願いします。

3 議事

(1) 我孫子市小中一貫教育の今後の計画について

・第1回の推進委員会が7月に実施された。ここで、「我孫子市小中一貫教育基本方針」について推進委員の皆さんから、ご意見をいただいた。それをもとに9月には市内全小中学校の教員(抽出)にこれまでの小中一貫教育についての調査を行った。本日は、その内容を反映させたこの改訂案についてご意見をいただきたい。

・今年度は「我孫子市小中一貫教育基本方針」の改訂、そして次年度は Abi☆小中一貫カリキュラムの改訂、そして各中学校区の小中一貫教育グランドデザインの見直しと進んでいきたいと考えている。

(2) 「我孫子市小中一貫教育基本方針」改訂案について

・まず、全体の計画、グランドデザインの大きな変更点について。前回の提案では、カリキュラムごとに6本の柱としていたが、より我孫子市のオリジナリティを出すことと、道徳や小学校の外国語・外国語活

動が教科化されるなど、今回の学習指導要領の改訂内容をふまえ、我孫子市では「Abi-ふるさと」と「Abi-キャリア」を大きな2本の柱とし、道徳、英語、ICT については土台部分に、「学習指導要領に準拠した教科・領域指導・基礎学力の定着」と「義務教育9年間を見守り支える特別支援教育」を脇柱として配置した。

- ・「我孫子市小中一貫教育基本方針」については、第1回推進委員会の意見と、各小中学校教員への調査結果を基に、改めて整理し直した。

①小中一貫教育が求められる理由・背景について

これまでの小中一貫教育についての国の動きと、平成26年からの我孫子市の小中一貫教育の歩み、各小中学校教員への調査結果について整理し、まとめている。

②我孫子市小中一貫教育の基本的な考えについて

国の小中一貫教育の定義をふまえ、我孫子市の小中一貫教育について、定義と形態を整理した。

【協議】

〇ここまでの部分が、我孫子市の小中一貫教育の理念にあたるところになる。全体的に前回より構造化できており、世の中の流れ、我孫子市の位置づけ、これまでの成果と課題から、今後目指していく取組が整理して示されている。文言の整合性についてはもう少し整理するとよいと思うが、内容についてはこれでよいと思う。

〇小5～中1の接続期の部分を重点としているが、これをグランドデザインにわかる形で反映できないか。色を工夫するとか、何かできないか。

- ・中期から後期のところで色を濃くするのはどうか。
- ・小6と中1の境目のところをどうするか。
- ・小1～中3までの並べ方の間隔を工夫し、接続期の間隔を寄せるのはどうか。
→事務局で検討する。

〇小中の引き継ぎについて、教育研究所が個別支援計画等について力を入れて取り組んでくれている。特別支援の面でもとてもいいことである。子育て段階からの見守りという視点も大切。市で取り入れている校務支援システムも(引き継ぎの)資料の充実につながるのではないか。我孫子市には、高校、大学もあるので、これからは、もっと総合的に保・幼・小・中・高・大と、連携、接続を進めていけるとよいと思う。

〇我孫子市の小中一貫教育については、「運用上」という位置づけでよいか。連携型となるのでは？

- 法律上の位置づけでいくと、本市の場合は「運用上」となる。その方が、今後も、これまでの実践を生かし、学習指導要領の規準の範囲で、ゆるやかに連携、接続の取組ができると考えている。
- ・学校内部の教職員だけでなく、保護者や地域の方にわかりやすく伝わるよう、位置づけについては説明を加えた方がよい。
→事務局で検討する。

③我孫子市が目指す小中一貫教育

- ・小中一貫教育のねらい、目指す子ども像、推進の方法、具体的な活用内容、それをまとめて示した総合計画、という構成にまとめ直した。
- ・目指す子ども像について、キーワードの文言を小中一貫教育のねらいとそろえ、「郷土愛」「未来を拓く力」「輝く心」とした。また、「豊かな心」の構成要素に「自己有用感」を追加した。

- ・目指す子ども像について、発達段階ごとに整理し、それぞれの発達段階においてその姿に近づいているかを見取りやすくした。(指標の設定)
- ・小中一貫教育推進の方法について、「つなぐ」という言葉をもとに、整理した。
これまで「我孫子スタンダード」として学習や生活の環境面の接続について示してきたが、今後各中学校区の特色や地域性を踏まえ、「我孫子スタンダード」ではなく、各中学校区において「生活のきまり」「学習のきまり」等を整え、中学校区の教職員、保護者、地域が一体となって取り組めるようにする。これを「環境でつなぐ」とし、これに従来の「授業でつなぐ」「人でつなぐ」と3つの要素でまとめた。

【協議】

- 指標ができ、読みやすくなった。具体的で、誰がやっても取り組める内容になったと思う。目指す子ども像のうち、「『ふるさと我孫子』を愛し」という部分については、「愛する」ということについての理解が難しいところだった。明確な行動指標があれば、取り組みやすい。そこで、中期の指標と後期の指標を見比べたときに、中期では子どもたちが我孫子の良さや課題について伝えること、すなわち「発信する」ところまで求めているが、後期では「仲間と語り合う」となっており、外向きの発信になっていない。これは、さらにグローバルな視点で「発信する」ところまで設定してもよいのではないか。外国語の授業等で、外国の方に向けて発信するのもよいと思う。
- ・後期の指標のうち、「今後の我孫子市について、市民として市の発展に貢献しようとしている」という部分に、これまでの学びを生かして取り組むというねらいが含まれている。発信もその一つ。しかし、確かに、説明を加えないとわかりにくいという点が課題なので、再度事務局で検討する。
- 特別支援教育についての位置づけはどうなっているか。これまでは Abi-特別支援教育となっていた。同じ脇柱の各教科領域の学習指導に関しては、学習指導要領に基づいての取組となり、我孫子市オリジナルのカリキュラムを作らないとなっている。特別支援教育については、我孫子市オリジナルのカリキュラムとして作るのか。
 - ・特別支援教育についても、特別な配慮を要する児童生徒それぞれに、成長や学習に必要な支援を適宜実施し、支えていくという面からも、また現在特別支援教育においては、インクルーシブ教育をはじめ、さまざまな動きがあることから、我孫子市のカリキュラムとして作るのではなく、必要性に応じて柔軟に取り組んでいきたいと考えている。
 - ・個のニーズに応じた特別支援教育を進めていくということ。
- 道徳については、「特別の教科道徳」となり、教科書が作られ、教育課程上の時数も示された。Abi-道徳は、このことと、どのように折り合いをつけていくのか。年間35時間に+2時間として、外枠を設けるのか。
 - ・道徳については、教科書で扱う教材のうち、我孫子市の学びの資源を活用して、同じ価値項目が学習できるよう、教材の入れ替えを行う。年間35時間の枠の中で、実施する。
- プログラミング教育の位置づけは、Abi-ICT と絡んでくるのか。論理的思考の育成については、いろいろな教科領域の場面で考えられる。我孫子市としてはどうするのか。
 - ・新学習指導要領では、プログラミング教育を取り入れる場面として、高学年の算数や理科など、示されている部分がある。これについてはもちろん取り入れていく。その他については、現在 Abi-ICT は PC スキルと情報モラルの2本立てで構成されているが、ここにプログラミングをどのように位置づけ

るか、課内で検討している。モデルプランを作成中なので、できるだけ早く、皆さんにお知らせできたらと考えている。

○小中一貫教育のねらいに、「小中の協働を通して」という表現がある。この協働というのは何か。

- ・具体的な場面としては、小中一貫の日のような小中学校交流の場面や、陸上大会等で小中学校の教職員がともに活動している場面がある。
- ・一つの目標に向かって、教職員、保護者、地域がともに手を取り合って活動するという意味が含まれている。
- ・では、子どもではなく、大人の「協働」を指すのか。文章前半の「9年間の連続した学び」という部分は子どもが主語になると思うので、少しわかりにくいと思う。
- ・「協働」については、用語解説に意味の説明をつけるようにする。
- ・せっかくだから、そこに子どもから地域の大人まで、みんなが手を繋いでいるようなイラストがあるとよいのではないか。
- ・事務局で検討する。

④具体的な小中一貫教育活動の内容について、その他

ここで示しているものが、これから改訂に入るカリキュラムのもととなる部分。先に全体計画の部分で触れたように、Abi-キャリアとAbi-ふるさとを大きな柱とし、それ以外を、土台と支えとして配置した。

それ以降の項立てについては、現時点で変更はないが、今後必要に応じて変更する場合もある。

【協議】

- Abi-特別支援教育が、土台・支えの部分に入っているが、先ほどの話では、我孫子オリジナルのカリキュラムは作らないということだった。各教科・領域の学習と同じように、ここには入れなくていいのではないか。
 - ・整合性の面からいえば、Abi-特別支援教育はここに入れない方がよい。各教科・領域の学習と特別支援については別立てで表記するのはどうか。
 - ・事務局で検討する。
 - 幼保小連携の部分で、現在我孫子市の連携体制はどうなっているのか。スタートカリキュラムを作成するには、やはり幼児期の子どもたちへの理解が必要となってくる。
 - ・現在我孫子市では、幼保小連携協議会を設置し、連携・接続についての取組を実施している。「我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム」を作成し、この小中一貫教育の目指す子ども像の重点に加え、幼保小の接続期に必要な生活面での育ちを考慮し、4つの重点を目指す子どもの姿に設定している。その姿を目指して、地区ごとに実践テーマを決めて取り組み、その成果や課題を共有している。しかし、各園・学校のアプローチ、スタートカリキュラムの具体的な接続という点では、我孫子市内33園中30園が私立園という状況において、難しい部分もある。
 - ・私立園ばかりという中で、連携を図っていくという点では、難しさがあると思う。それについては、今後さらに検討していく必要があるのではないか。
 - ・せっかく「我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム」があるのだから、土台の幼保小接続の部分に、「Abi-幼保小接続カリキュラム」などとして、掲載するのはどうか。
 - ・幼保小連携事業については、保育課との共同事業のため、こちらだけで今判断するのは難しい。
- 市のグランドデザインの中には、小小連携を示すような部分は入らないのか。

- ・それについては、各中学校区での取組となってくるので、各中学校区小中一貫教育グランドデザインが担う部分となる。また、活動自体についても、中学校区ごとに、これから進んでいくかというところ。
 - ・湖北台中区についていえば、中学校区のグランドデザインができる以前から、湖北台西小と湖北台東小の交流は行っている。キャリア教育の職業人講話の合同開催や、林間学校での合同キャンプファイアー、陸上部の合同練習なども実施してきた。
- 郷土愛を伝えるという点では、学校の教員が入れ替わったり、他市から異動されてきたりする中では、難しいのではないかと感じている。
- ・確かに難しいところもある。もったいないと思う。

4 その他 連絡

本日いただいた意見をもとに、「我孫子市小中一貫教育基本方針」を修正します。